「笠間の栗」付加価値販売体制の確立と経営向上

県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター

笠間市は作付面積・経営体数ともに日本一のくり産地で「笠間の栗」は市を代表する特産品目です。
普及センターではくり産地の発展のため、関係機関と連携し、①生くりの冷蔵貯蔵出荷体制の確立支援（無くん蒸栗の出荷）、②省力栽培に向けた取組と安定生産支援（ドローンによる害虫防除）、③付加価値販売の取組強化（直売における果実品質の確保と加工による高付加価値化）に取り組んできました。

生くりの冷蔵貯蔵出荷体制の確立支援

JA 常陸友部栗選果場における生くりの冷蔵貯蔵出荷体制を確立するため、重要害虫クリシギゾウムシの発生状況を調査し、冷蔵貯蔵による殺虫効果を確認しました。その結果、９月下旬以降に殺虫処理が必要となること、－２℃で４週間の冷蔵貯蔵で殺虫できることが明らかになりました。

令和７年産のくん蒸殺虫をしない無くん蒸のくりの出荷量は 165t で、前年（令和６年 129t）を上回りました。

表１　クリシギゾウムシ殺虫効果の確認

品種	試験区	調査果数（果）	クリシギゾウムシ幼虫発生数（頭）	被害果率（%）
「筑波」	貯蔵前	100	0	0
	貯蔵３週間後	100	3	1
	貯蔵１か月後	100	1	1
「石鎚」	貯蔵前	100	13	2
	貯蔵３週間後	100	1	1
	貯蔵１か月後	100	0	0
「普通栗」	貯蔵前	100	9	2
	貯蔵３週間後	100	0	0
	貯蔵１か月後	100	0	0
「美玖里」	貯蔵前	100	16	7
	貯蔵３週間後	100	1	1
	貯蔵１か月後	100	0	0

省力栽培に向けた取組と安定生産支援

スマート農業の推進と安定生産のために、ドローンによる害虫防除の実践を支援しました。関係機関と連携し、JA 常陸笠間地区栗部会員のほ場約７ha でドローンによる防除に取り組みました。作業時間は約４～５分 /10a と非常に省力的であり（慣行：20 分 /10a）、ドローン防除を慣行防除に追加することで、虫害を減らすことができました。

図１　ドローン防除の様子（８月）

付加価値販売の取組強化

令和３年に「道の駅かさま」の直売所が開業し、JA 常陸笠間地区直売所生産部会に対するくり栽培講習会や果実品質調査の実施により、くり販売額の向上や果実品質の確保に寄与しました。

令和４年から大規模ペースト加工施設「笠間栗ファクトリー」が稼働し、加工指導センターと連携した加工工程の改善支援により、くりペースト日製造量が向上しました（令和６年：960kg / 日→令和７年：1,280kg / 日）。

図２　道の駅かさま（上）と
直売所でのくり販売の様子（下）